

## 巻頭言

本誌『筑波大学発達臨床心理学研究』は、今回、第21巻を発刊する運びとなりました。20年以上の長きに渡り、論文を投稿された先生方また本誌を愛読された先生方に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、この3月をもちまして、私共の大先輩である新井邦二郎先生が、ご退職されることになりました。そこで、本誌編集委員会では、今年度号を「新井邦二郎先生退職記念号」として、編集委員会からの依頼論文で構成した「発達臨床心理学のニューフロンティア」と、多くの方々からご寄稿いただいた「新井邦二郎先生との思いで集」で構成することにしました。

「発達臨床心理学のニューフロンティア」では、新井先生にご指導いただいた元院生の方々を中心に編集委員会でご人選を行い、ご自身の専門領域の研究動向や研究の近況を報告していただきました。また「新井邦二郎先生との思いで集」では、新井先生と親交のあったの方々を中心に、編集委員会のわかる範囲で原稿を依頼し、新井先生との出会いやエピソードなどを寄稿していただきました。ご多忙のなか、ご執筆いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。ふたつの特集により、新井先生の素晴らしい業績や指導力さらには温かいお人柄も確認されたように思います。

先生は、1989（平成元）年に埼玉大学教育学部より、筑波大学心理学系に異動されてこられました。1997（平成9）年の大学院博士課程心理学研究科長をはじめとして、心理学系長、人間学類長、そして附属高等学校長などの重職を歴任され、筑波大学の発展に大いに貢献されました。また、学会活動では、日本教育心理学会の理事長に就任されたほか、国際交通安全学会の顧問もされております。さらに、文部科学省等の各種委員会の委員も数多く引き受けられ、これまでのご活躍には目を見張るものがあります。この3月をもってご退職されるのが誠に残念です。あとに残される私共は、先生を手本としてさらなる大学の発展と学会・社会への貢献を目指して、心理学の研究並びに教育に邁進していく所存でございます。

末筆になりましたが、本誌刊行に向けて尽力された編集委員会の方々および院生の皆さんに感謝いたします。

2010年2月

壮麗な筑波山が見える大学にて  
筑波大学大学院教授 櫻井 茂男